

農地・水・環境保全だより 第14号

編集・発行 三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

会長就任挨拶

三重県農地・水・環境保全向上対策協議会長 橋爪彰男

本年4月より、「三重県農地・水・環境保全向上対策協議会」の会長を務めさせていただくこととなりました三重県農林水産部長の橋爪彰男でございます。

当協議会の発展に向け、微力ながら精一杯努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

さて、平成19年度から実施されてきました「農地・水・環境保全向上対策」は、平成24年度から新たな5年間の対策としてリニューアルされ、本年度2年目を迎えています。

現在、県内の水田を有する約2,000集落の4分の1にあたる502集落、16,689ヘクタールの農地において、地域の特色を生かしながら、農地や水路などの保全を中心とするさまざまな取組が行われています。改めて、これまでの皆様のご努力に敬意を表するところです。

現在、国においては、内閣総理大臣を本部長とする「農林水産業・地域の活力創造本部」が設置され、農林水産業の成長産業化や、美しく伝統のある農山漁村の次世代への継承、食の安全と消費者の信頼の確保に向けた新たな方策の検討が始まっています。

特に、「農地・水・環境保全向上対策」に関係する「美しく伝統のある農山漁村の次世代への継承」に向けた具体的な制度の検討状況については、県としましても、国の動きを注視し、情報的的確な収集と関係機関の皆様との共有に努めてまいります。

また、県では、戦略計画「みえ県民力ビジョン」において、「もうかる農林水産業」の実現につなげるためのさまざまな施策を展開しています。

「農地・水・環境保全向上活動」においても、新たな価値創出の取組を入れるなど、「もうかる」視点を加えていただきながら、地域住民や学校、企業、NPOなど、農村に関わるさまざまな主体の参画も得て、地域における活動の持続性を高めていくことが重要だと考えています。

活動組織でご活躍のリーダーの皆様におかれましては、地域資源を生かした集客や加工・販売を行う6次産業化など、新たな経済活動の創出に向けた取組を働きかけていただきますようお願いいたします。

最後に、今後とも、「農地・水・環境保全向上活動」のさらなる発展に向け、精一杯取り組む所存でございますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

〈三重県農村地域資源保全向上委員会 委員紹介〉

三重県では、『三重県農村地域資源保全向上委員会』を設置し、さまざまな分野で活躍している5名の皆さんに委員となっただいただいています。5名の委員には、農地・水・環境保全向上対策などの事業について、取り組み状況の確認、「みえのつどい」などの啓発活動に対する助言・指導を行っていただき、事業の推進に力添えをいただいています。

毎年、みえのつどいでの優秀活動表彰の審査や表彰式での講評を行っていただいていますので、活動組織の皆さんの中にも、ご存じの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回の第14号と次回の第15号において、5名の三重県農村地域資源保全向上委員の皆さんをご紹介させていただきます。

〈委員長〉 大野 研（おおの けん）

（三重大学大学院生物資源学研究所 景観設計）



熊野市 丸山千枚田にて（右端）

景観を専門としています。景観というと、単なる見た目の美しさだけを研究していると思われがちですが、特に欧州では自然からと人間からの地域への影響を総合的に反映するものと理解されています。自然環境が変化して景観に影響が現れたり、人間活動で景観が変化したりすることは、皆さんもしばしば経験されてきたことと思います。したがって、欧州では景観を評価したり監視したりすることで、その地域の環境を評価したり保護したりしようとする動きが活発です。僕はこの動きを日本にも取り入れていこうと考えています。

もちろん農村の美しい景観は、人々の大切な資源であり、人々に安らぎを与えると同時に、観光をはじめとした農村の活性化に必要なものとも考えています。

英国に留学させていただいていたこともあり、フランスとイギリスの農村観光については多少知識を有しているつもりです。欧州の農村観光は、田舎でのんびりするというのが基本です。日本人には、このような観光は不向きと言われ、日本では何らかの活動を伴う農村観光が一般的です。しかし僕は、のんびり出来る農村観光も一定のニーズがあるのではないかと考えています。例えば海水浴でも、昔なら必ず泳いだはずですが、今ならゴロゴロと日焼けだけをしに行く人が多くいるのですから。そして、のんびりするというのは経済活動と無関係っぽいですが、現在多くの観光地・高速道路のサービスエリア・カフェなどでは、平均滞在時間と売り上げに相関があると言うことで、平均滞在時間が長くなるように努力しています。となるとのんびりも悪くないですね。

と言うことで自然環境と人間活動が調和して、美しいところでのんびり出来ることを目指しています。今後ともよろしくお願いいたします。



フランスにて（家族とともに）

〈委員〉 伊藤 良栄（いとう りょうえい）

（三重大学大学院生物資源学研究所 水理学）

活動組織の皆様、農村地域資源保全向上委員を仰せつかっております三重大学の伊藤と申します。平成 3 年に三重大学生物資源学部に赴任し、かれこれ 20 年以上になります。私の専門は水理学（すいりがく）で、大学院の博士課程から三重大学に赴任してしばらくは安濃ダムの濁水長期化の研究を行い、過去最大の出水となった平成 5 年台風 14 号の際にも調査のためダム管理所に待機しており、夜中に岩が大きな音を立てて斜面を転げ落ちていくのを聞き、学生ともども自然の脅威に驚いたことが思い出されます。



パラボラアンテナを使った衛星通信

その後は IT の農業への応用にも興味を持ち、海外や国内の圃場でインターネットを利用したモニタリングシステムを構築してきました。特に農水省の支援を受けて熊野の金山パイロットを対象に行つ三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

た実証実験では、プロジェクト開始当時はまだ圃場で携帯電話が繋がらなかったため、写真にあるようなパラボラアンテナを使った衛星通信でインターネットと接続しました。

最近では、農村地域の皆様と学生の交流活動も行っており、毎年中勢用水土地改良区のサマーセミナーで研究成果を発表させたり、「農村災害ボランティア」活動を実施したりしています。特に「農村災害ボランティア」は通称お助け隊として、学部の授業で学んだ測量技術を地域のために活用すべく毎年研修会などを行っています。残念ながら知名度が低いことため実際に被災現場で測量のお手伝いをしたことはありませんが、今後は農地・水・環境保全向上対策事業の共同活動のお手伝いなどを通して、活動組織の皆様や市町の方に我々の活動を知っていただけるよう努力してきたいと考えております。



農村災害ボランティア

〈県内の活動紹介〉

～田んぼアートに取り組んでいます～

榊原みずすまし会（津市）

今年で4回目となる『田んぼアート』の田植えを6月16日に行いました。

今年は「花」をテーマに榊原小学校の児童からデザインを募集した、チューリップとヒマワリを3色の稲で表現します。

久居農林高校の生徒に測量や田植えに協力していただき、地元住民や親子づれなど約240名の参加者が泥だらけになりながら田植えを楽しんでいました。

苗が成長する7月中旬～9月上旬に見頃を迎えます。お年寄りから子どもまで、みんなで植えた『田んぼアート』をぜひ見に来てください。カラフルな田んぼアートの『のぼり』が皆さまをお待ちしています。



田んぼアートの『のぼり』



みんなで田植え



昨年の生育状況

